

若手技術職員としての業務内容紹介

後藤 美里

1. はじめに

令和2年4月に大分大学理工学部技術部に化学系技術職員として採用され、2年弱、業務支援を行ってきた。主な業務は、技術部や全学的な運営支援業務、学生実験や講義などに対する教育支援業務、所属研究室での研究支援業務などを行っている。本稿ではこれまで私が携わってきた業務内容について紹介する。

2. 業務内容

大分大学理工学部技術部は、令和2年4月に学部の改組と全学的な業務体制への対応に向けて4技術室8班へ組織構成を刷新した。教育支援業務は「機械」「建築」「電気電子」「応用化学」「制御」「情報」「センター運用」「設計・加工」といったそれぞれの専門分野別に支援業務を行っている。私はその中の「応用化学班」に所属し、理工学部共創理工学科応用化学コースへの支援業務を行っている。運営支援業務は専門分野によらない横断的な活動を行うワーキンググループ（WG）を8つ設けており、技術職員は各担当のWGに所属し活動している。

●教育支援業務

応用化学コースの学生実験の補助や、所属研究室の事務作業や備品・試薬管理及び機器のメンテナンスなどの業務支援を行っている。

●運営支援業務

4つのWGに所属し、そのうちの一つである科学実験WGでは、地域貢献活動の一環として体験型子ども科学館O-Laboのイベントに参加した。そこでは子ども達と一緒にメビウスの輪やストロー飛行機の製作を行った。

●研究支援業務

現在所属している研究室では、次世代食料（代替タンパク質）として期待される昆虫のミールワームをテーマとした研究支援を行っている。

●短期業務依頼

学内での業務依頼を受け、原則1回の依頼につき6か月以内の期間で業務を行う。昨年はオンライン授業のサポート（Zoom操作補助、動画撮影・編集）などを行った。

●就職支援業務

コースに届いた求人情報や就職説明会、インターンシップ情報などを掲示板やMoodleに掲載し、学生に情報を提供している。

3. おわりに

これら様々な内容の業務を通して、幅広い知識やスキルが必要であることを実感した。特に学生実験の支援では学生の安全を確保し、正しいことを教えることが求められるので、必要な知識を身につけたい。またコロナ禍でオンライン授業という新しい形態が必要になったように、その時の環境の変化に応じた業務支援が迅速に行えるようにしていきたい。